

プロコフィエフ ピアノソナタ全曲

Mitake
Sayaka
Salon

第一回

<プログラム>

ピアノ・ソナタ第1番 へ短調 Op.1

ピアノ・ソナタ第4番 ハ短調 Op.29「古いノートから」

ピアノ・ソナタ第7番 変口長調 Op.83「戦争ソナタ」ほか

*プログラム等は、やむを得ない事情により変更になる場合がございます。

2018年 10月27日(土)
開場17:30/開演18:00

12/8

第二回

ピアノ・ソナタ第2番 二短調 Op. 14

ピアノ・ソナタ第6番 イ長調 Op. 82「戦争ソナタ」

ピアノ・ソナタ第9番 ハ長調 Op. 103ほか

2019/2/24

第三回

ピアノ・ソナタ第3番 イ短調 Op. 28「古いノートから」

ピアノ・ソナタ第5番 ハ長調 Op. 38

ピアノ・ソナタ第8番 変口長調 Op. 84「戦争ソナタ」ほか

チケット料金

◎会員

3回セット券：8,500円/1回券：3,500円

◎一般

3回セット券：10,000円/1回券：4,000円

◎学生

3回セット券：6,000円/1回券：2,000円

123
Mitake Sayaka Salon (vol.15)
全曲プロジェクト第1弾

Piano
入江一雄



©Tsuneo Koga

入江一雄 ピアノコンサート

2018年10月27日(土) 開場17:30/開演18:00 入場料:会員3,500円/一般4,000円/学生2,000円(全席自由席)

プロコフィエフ ピアノソナタ全曲

止まらない入江イズム——
作曲家との対話から生まれる、プロコフィエフの真髓に迫る。

「中学生の頃、ホロヴィッツがモスクワ音楽院の大ホールでスクリャーピンのOp.8-12悲愴のエチュードが収録されたCDを聴き、衝撃を受けた」

そう語る入江一雄さんがその10年後、モスクワ音楽院に留学することになったのは、その時、考えもしなかったことでしょう。

なにか大切にしているもの——

残さないといけないもの——

鬼気迫るような、命がけで何かを残そうと演奏していることが伝わってくるロシアの巨匠たちに憧れを抱いたという。

今振り返ると、ロシアに留学したのは「必然」だといいます。

モスクワでは、彼らが作曲家にたいしてまず、「尊敬の念」を抱き、尊重していることに感銘を受けたという入江さんの演奏からは湧き上がるような音楽への情熱と作品に向き合う誠実さを感じます。

「昔は、自分の存在を知ってもらいたくて演奏していた記憶がありますが、一周まわりまして…(笑)今では、作品や作曲家の魅力を、聴いている人に伝えられるような演奏家になりたいですね。

自分も年を重ねるごとに、以前は苦手だった作曲家が好きになったりですとか、もともと好きだった作品や作曲家について新しい角度で見ることができるようになったりと、そういった気付きや発見が多くあるのです。そんな自分の体験を聴いて下さる皆様と共有できた時、演奏家としてこの上ない喜びを感じます。このような思いをずっと持ち続けて演奏していきたいです。

演奏家としてはバランスの良い大きい5角形とでもいうのでしょうか、それが理想ですね」

何かに特化した演奏家や肩書きを名乗る演奏家は多くいます。

ですが、膨大なクラシック音楽の数々の楽譜のなかには、一生をかけても語りきれない尊さや崇高さが隠されています。

演奏家はその隠された素晴らしいものを大きな器で包み込み、自分という存在を無色透明にし、伝えていく存在ともいえるでしょう。

入江さんは「バランスの良い大きな5角形」のような演奏家になりたいという彼の真意を、本シリーズを通して披露してくださるのでしよう。

「偉大な作曲家たちが遺した遺産でもある作品に触れると、人の存在を超えた神々しいものを感じ、近づきたいなと感じることもあります。

しかし、それらに近づこうと努力をしていくうちに、やはり人間味があるといえますか…人間が生み出したものだということがわかると、親近感が

湧くのです。

一種の先入観のみで、あの曲よくわからないなあ…と思って聴いているだけだと、結局その曲が発しているメッセージも伝わってこないはず。人間関係とか恋愛とかも一緒だと思うのですが、歩み寄ると歩み寄ってもらえますし…何か本気で知りたと思って行動すれば、どれだけ時間がかかったとしても必ず理解できる瞬間が来ると信じています。クラシック音楽は作品数も膨大ですので、生涯、追究して楽しめるものだなと思います」

一つの考え方ややり方にとらわれていたり、あまり意味のないこだわりを持っていたりすると、それ以上の器でものごとを捉えることはできません。

これは音楽に限った話ではありませんが、入江さんのような優れたバランス感覚を持った音楽家は珍しく、その才気が彼の活動の幅を広げているのではないのでしょうか。

そんなオールラウンドな入江さんですが、プロコフィエフには特別な想いがあるとのこと、シリーズに向けてメッセージをいただきました。

プロコフィエフに寄せて

私にとってプロコフィエフは、数多くの素晴らしい作曲家の中でも群を抜いて好きな存在です。

彼の作品に初めて出会った時からその魅力に惹かれ、以降、熱が冷めることはありません。交響曲・室内楽曲やヴァイオリン・チェロのための協奏曲など、好きな作品を挙げればキリがありませんが、その中でもやはりピアノ作品が素晴らしいと感じています。

プロコフィエフの音楽というと、「トッカータ」「風刺」や他の作品に多く見られるモーター性・無窮動が真っ先に浮かぶ方も多いと思いますが、ピアノ作品であればなおさら、楽器の特性上打撃的な要素に耳が行きやすいのですが、ヴァイオリンソナタ第2番やヴァイオリン協奏曲第1番冒頭に見られるような旋律の美しさも大きな要素のひとつで、それを見逃すことはできません。

前述以外にも多彩な音楽性に富み、9曲あるピアノソナタにはそれらが余すところなく凝縮されています。「戦争ソナタ」といわれる第6・7・8番を各回のメインに据え、プロコフィエフの音楽を多角的に楽しんで頂けるようなプログラミングを施しました。聴いて下さる皆様と、新たなプロコフィエフ像を築いていけるならこれ以上の喜びはありません。(入江一雄)



大ホールのプラチナ席をしのごう
“美竹清花さろんという楽器”の中で
味わう一期一会

世界に羽ばたく才能あふれる
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

美竹清花さろんが追求する“本物の音楽”は、

演奏者と参加者とわたしたちの、

三位一体の努力と対話から生まれます。

誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 ILA (美竹清花さろん)
東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)
☎ 03-6452-6711 (平日 9:00-18:00)
070-2168-8484 (時間外可)
Fax 03(3409)0188



JR渋谷駅(宮益坂口・東口)を出て、
左前方の交差点を渡り青山方面へ坂を登る。
渋谷郵便局を過ぎ、ぼてぢゅうとAOKIの
間の小道を左折します。

バスターミナル
(宮益坂口・東口)
JR渋谷駅
交番 恵比寿→

